

アセスメント・ポリシー（学修成果の評価方針）

秋田公立美術大学は、以下の指針をもとに、学生が修得した知識、技能ならびに思考力、表現力、意欲を多面的に評価します。

(1) 評価の内容

講義科目では、知識とその応用力および態度を評価します。演習科目と実技・実習科目では、技能、思考力、表現力、意欲についても評価します。

(2) 評価の方法

知識とその応用力に関しては、筆記試験や課題レポート等により評価します。技能、思考力、表現力および意欲は、実技、作品、レポート、プレゼンテーション等で評価します。

(3) 評価の基準

科目の成績は、可能な限り達成度を数値化して評価し、次に示す、秀、優、良、可、不可の評語で評価します。

評語と評点、及び評価基準表		
評語	評点（100点満点）	評価の基準
秀	90点以上	基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている
優	80～89点	基本的な目標を十分に達成している
良	70～79点	基本的な目標を達成している
可	60～69点	基本的な目標を最低限度達成している
不可	60点未満	基本的な目標を達成していない

(4) G P A（Grade Point Average）

G P Aによる成績評価方法を導入し、学生個人および科目の達成度の評価に利用します。また、学部においては、専攻選択や大学院進学等の進路指導に関する判断資料として活用します。

(5) 再試験および追試験

定期試験で、所定の到達目標に達しなかった場合は、再試験を行うことがあります。また、定期試験を何らかの事由で受験できなかった場合は、追試験を行うことがあります。

(6) 出席条件

科目履修は出席することが前提ですので、出席状況は評価の対象になりません（出席点はありません）。

(7) 情報の開示

G P Aの情報を学生に開示すると共に、個々の成績評価に関し、学生からの照会に応じます。また、進級・卒業（修了）要件等は別に定めて明示します。

(8) 点検と改善

評価方法の選定と基準の設定にあたっては、その妥当性、客観性ならびに実現可能性を考慮し、教務委員会にて定期的に見直しを行います。さらに、科目G P Aの平均値および分布の状況を教務委員会で点検し、教育内容および教育方法の改善につなげます。